

佳作

白いうわぐつ

「月曜は、まっ白」私は、下足箱でくつをはきかえながらつぶやいた。私のうわぐつは月曜日はまっ白です。金曜日に持つて帰ってくるうわぐつは、土曜日間にじいちゃんがきれいに洗ってくれるからです。

まっ白のうわぐつはちよつと気の重い月曜日の気持ちをはきしめてくれます。

そして私は、まっ白のうわぐつをはいて教室へ入ります。いつものように学校から帰るとお母さんに「たまには自分のうわぐつは自分で洗いなさい」と言われた。

「だつてうわぐつは、じいちゃんが洗ってくれるのに」私の口はちよつと、とんがった。その口をお母さんは見のがさず、ジロツと私を見た。私は、しぶしぶうわぐつを持つて庭に出た。バケツに水をはつて洗剤をブラシにつけて洗つてみた。「うーんあんまり落ちんなあ」私は、もつと洗剤をつけてゴシゴシ洗つた。「まあ、これでいいか」とうわぐつをすすいで陽の当たる場所に干した。

次の日、かわいたうわぐつを見るときれいになっているような、なつてないような……ところどころ、汚れが落ちていない。「じいちゃんが洗ってくれるうわぐつは、まっ白なのにな……」

香川県

観音寺市立観音寺東小学校 五年

細川 夕佳里

と思いがら、げんかんに入った。そしてふと目を下にやると、じいちゃんのぞうりが目に入った。

「じいちゃんのぞうりもドロドロやなあ」と思った。じいちゃんは庭で野菜を作っているの、ぞうりに畑の泥がいっぱいついていた。私は、じいちゃんのぞうりも洗ってみようと思った。昨日のようにバケツを出して、ぞうりを水につぐつより時間をかけて洗つた。「うん。きれいになった」じいちゃんのぞうりを太陽の光に当てた。

ぞうりは、太陽の光が反射しキラキラして私はうれしくなつた。そして私は、また陽の当たる場所にぞうりを干した。

次の日、じいちゃんがぞうりをさがしていた。私は外に干してあるぞうりを走つて取りに行き、じいちゃんに差し出した。じいちゃんは「ゆかりが洗つてくれたんか」と言った。

私は「うん」と言った。私はちよつとはずかしくなつた。じいちゃんは「ありがとう」と言つてくれた。私もじいちゃんに「いつもありがとう」と言った。

じいちゃんの目は細くなつた。私の目も細くなつた。